

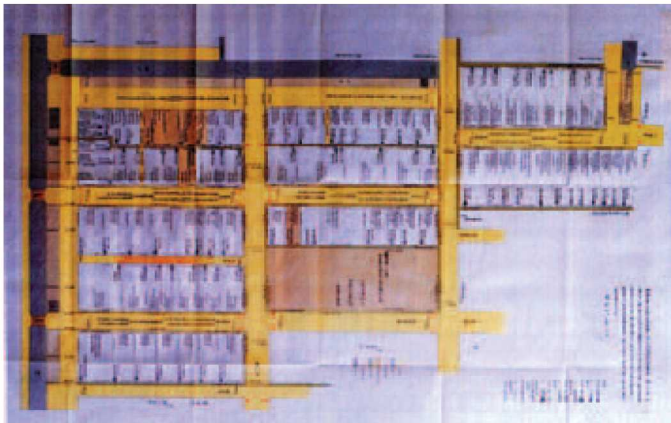
# 江戸はこうして造られた

## 江戸の町の水利機能（下水道）



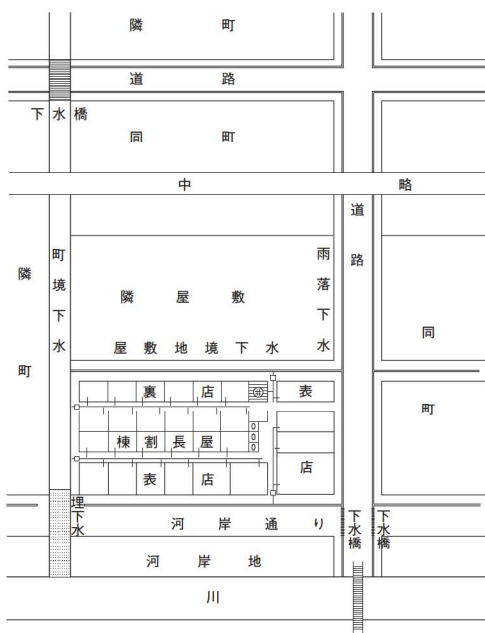
江戸の町には早くから道路の端や長屋の路地・町境・屋敷境に木組や石組の下水道（溝）がつけられていた。「下水」は町の近くの堀や川を通じて、江戸の海へ流れ出ていた。「下水」は雨水と雑排水である。尿尿は近郊農家へ運ばれ肥料として利用され、下水道に取り込むことはしなかった。下水道をつくったのは幕府であるが、下水浚いや修繕等の維持管理は、幕府と「町」が分担して行っていた。

江戸の町は道路を挟み向かい合って一つの町になっていた。道路両側に、幅一尺ほどの下水溝が描かれており、隣町との境（町地裏側）にあった幅三尺、あるいは五尺の下水溝につながっている。図の左端には道路端の下水溝と町境の下水溝が「河（浜町川）」につながっている。図の上部では、道路端の下水溝が「入掘」につながっている。下水溝が道路や海岸通りを横切るところには「木蓋」がされている。



「高砂町難波町裏河岸住吉町裏河岸元大坂町新和泉町南側」沽券図（中央区京橋図書館蔵）

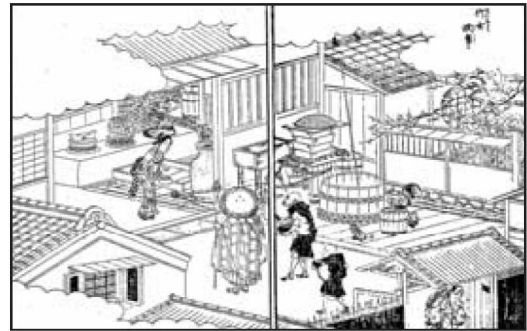
沽券図中の一区画が一屋敷地であり、屋敷地境には石組、木組の下溝がつけられていた。屋敷地の道路に面したところには借店（表店）があり、裏手には長屋（裏店）がつけられていた。長屋の各家からの下水は出入り口の敷居の下にあった木桶または竹筒を通り路地の下水溝に流れ出ていた。



沽券図に基づく江戸の下水道のしくみ想像図（栗田 彰氏作製）

### ■町屋の下水

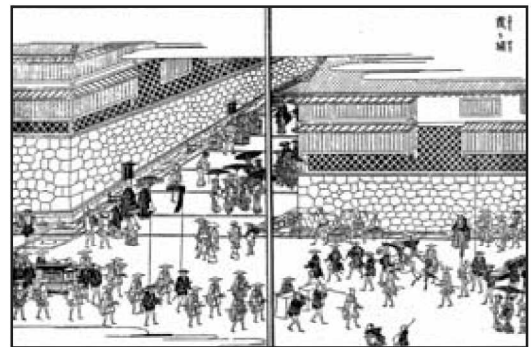
「下水」にごみを流さない工夫が見られる。「流し」の排水孔の所から光が放たれているのは、「竹女」が排水孔に網をかけ、そこに溜まった飯粒を食べ、自分の食事を物乞いに来る人たちに食べさせた、という「竹女大日如来化身」の伝説を描いたもの。「流し」からの排水は「流し」の下の溝に落ち、台所出入口下の石蓋がされた溝に出て、井戸端からの排水もあわせて、井戸端脇の石組の溝から外へ流れ出たものと思われる。



竹女故事（『江戸名所図会（原寸復刻）』評論社 1996から転載）

### ■武家屋敷の下水

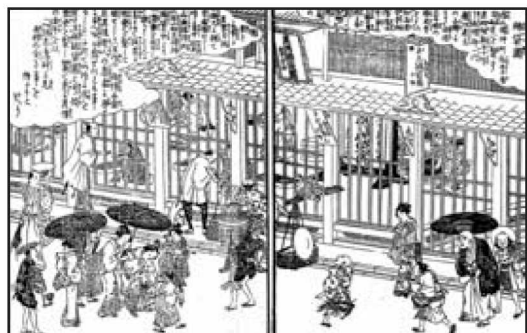
屋敷内からの排水が表の溝へ直角に落ちる工夫が見られる。描かれているのは左右とも大名屋敷。屋敷地の周りに石組の溝が作られていた。左側屋敷地の石組溝の中にはごみ除けの柵がつけられている。溝の角の道路には「石柵」の蓋らしいものが描かれている。



霞ヶ関（『江戸名所図会（原寸復刻）』評論社 1996から転載）

### ■雨落下水

商家の前に石組の溝が描かれている。江戸の町の道路の両側には、道路に降った雨、軒先から落ちる雨を受け入れる「雨落下水」といわれる溝がつけられていた。「雨落下水」に落ちた雨水は町中の下水溝に流れ込み、そこから近くの堀や川に流れ出ていた。この絵では「雨落下水」に蓋が描かれていないが、普通は木または石の蓋がされていた。



錦袋園（『江戸名所図会（原寸復刻）』評論社 1996から転載）